

○飯舘村の保護者です

こんにちは。先日、飯舘村の草野小学校（川俣中学校借り教室内）に通う5年の息子が「図書カードをいただいた」と、喜んで持って帰ってきました。何を買おうか・・・わくわくしながら、欲しい本の話をしてくれました。（現在、星新一にはまっています）

今回の震災では、家屋の被害が無く地震に強い飯舘村でしたが、原発の放射能汚染では、村全体が被害を受け、その近隣の市町村にも被害は拡大しています。

大人同士が心配し合う会話をうけ、子ども達も同じように心が傷ついています。でも、学校にたくさんの図書の寄贈があり、本を読むことで楽しく時を過ごしています。

今回は、一人一人に図書カードをいただき、ますます読書への楽しみが広がり、保護者として大変うれしく思います。お礼をしたく、メールをさせていただきました。ありがとうございました。

○図書カードありがとうございました！

福島県飯舘村のものです！

この度は、子ども達に図書カードを頂きありがとうございました！

我が家は、女の子3人の三姉妹で、特に長女は、読書が大好きです！

学校を通じて図書カードを頂いた時は、本当に嬉しかったようです！

本当にありがとうございました！

感謝します！

佐藤

○先日は大変貴重なプレゼントをいただき、ありがとうございました。早速、子どもや保護者に知らせました。夏休み中に、良書に親しむ機会が増え喜んでおります。

さて、そのカードで購入した本の感想文を書くなど、これをきっかけに読書の習慣をつけたいと考えております。

本当にありがとうございました。

福島県相馬市立飯豊小学校 教頭 加藤利之

<大震災>出版対策本部

日本書籍出版協会 日本雑誌協会 日本出版クラブ 様

先日は、子どもたち全員に高額な図書カードを寄贈いただき、深く感謝申し上げます。さっそく、保護者にお知らせし、図書カードを配布致しました。

本校は、学区や校舎も被害はありませんでしたが、体育館が避難所となり、最大で450名が避難しておりました。現在は18名が、まだ体育館で避難所生活を送っております。

宮古市の1学期のスタートは、4月25日でしたので、夏休みは7月29日から8月16日までと短くなりました。

本校は、図書館教育に力を入れ、読書活動を頑張っております。大震災後の子どもたちの心のケアにも、読書の役割は大きいと思います。このようなときに皆様からの心温まるプレゼントに感謝いたします。皆様からいただきました励ましのことばを大切に、これからも頑張っていきたいと思います。

皆様のご活躍とご発展を祈念し、図書カード寄贈の御礼と致します。

平成23年7月14日

岩手県宮古市立山口小学校

校長 巖 敏 雄

<大震災>出版対策本部 様

盛夏の候、いよいよ御清祥のこととお喜び申し上げます。このたびの、東日本大震災に際しまして、図書カードをお送り頂きありがとうございます。皆様方の、温かいご支援に対しまして心から感謝申し上げます。7月30日からの夏休みを心待ちにしている子どもたちにとっては、とてもうれしいプレゼントとなったようです。

今回の震災でうけた地域の被害と子どもたちの心の傷はかなりのものではありますが、皆様方をはじめとして、日本中・世界中から物心ともに応援をさせていただいて次のステップに向かっているところです。町内には、まだ避難所となっていて校庭には、仮設住宅が建設中の学校もあります。子どもたちの教育環境の回復にはまだまだ時間がかかるところです。

さて、地域の「復興」に学校として出来ることは何かと考えると、「子どもたちの笑顔」が大人の復興に向かう一番のエネルギーになると考えます。今学校で出来ることは、子どもたちが笑顔になるような授業をすることであり、学校生活を送らせることだと思います。学校から1歩外に出ると瓦礫の状況を見て、避難所や親戚の家で生活している子どもたちが多くいます。せめて学校に在る間は、子どもらしく明るく笑い声の響く生活を送らせていきたいと思っています。そのためには読書はとても大切な時間となります。本当にありがとうございました。

山田町並びに大浦地区の復興には、まだまだ時間を

要するとは思いますが、皆様のご支援を胸に、学校と地域と一丸となって邁進いたしますので、今後共、よろしくお願ひ致します。

末筆ながら、ご支援を頂きました事に、深く感謝申し上げます、お礼の言葉と致します。

平成23年7月15日

山田町立大浦小学校

校長 高橋澄夫

〈大震災〉出版対策本部 様

お 礼

暑気日ごとに加わりますが、〈大震災〉出版対策本部様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は、全校児童に図書カードのご支援をいただき、誠にありがとうございました。さっそく子供たち一人一人に手渡ししましたが、夏休み前の思いがけないプレゼントに大喜びでした。皆様からのお心遣いに厚く御礼申し上げます。

悪夢のような3月11日から、4ヶ月余りが過ぎました。あの震災は、我々豊間小学校児童、職員、保護者だけに止まらず豊間・薄磯地区に住まいしている全ての人々の生活を一変させてしまいました。残念ながら本校でも、津波に飲み込まれ犠牲となった児童2名、保護者も3名います。働き盛りの人も、海の仕事を生業としている元気な老人も、多くの方が帰らぬ人となりました。

そんな状況下でしたが、4月6日には被災小学校4校合同で、いわき市教育委員会主催の「入学を祝う会」が挙行され、新年度のスタートを切ることができました。28名の新入生を迎える予定が半分の14名になりましたが、明るく元気な新入生は私たちの希望のシンボルです。

幸い本校の校舎は無事だったのですが、ライフラインは寸断され、通学路は瓦礫の山で、隣の学区の高久小学校に仮校舎を置き授業を再開しました。4月当初は、児童も私たち豊間小職員や保護者も、本当に経験できないような生活の中で、なかなか大変な毎日が続きましたが、1学期も残りわずかとなった今、徐々に環境にも慣れ今は落ち着きを取り戻しつつあります。

このような中でも明るい話題もあります。5月末には市内各所の避難所で暮らしていた全ての児童が仮設住宅や借上住宅に移り、新しい生活をスタートすることができました。また、126名で始まった1学期でしたが、市外県外の避難先から多くの子供たちが学校に戻り、現在の在籍児童は143名となりました。

この逆境に負けることなく、一步一步明日をめざし歩みを止めることなく、力強く生きていくことこそが支えてくださっている皆様のご厚情に報いる道と思っています。

最後になりましたが、〈大震災〉出版対策本部様はじめ、ご支援いただきましたたくさんの方の皆様のご健康をお祈りいたしまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

平成23年7月14日

福島県いわき市立豊間小学校長 鈴木 洋一

追伸 「いわき民報」に載った新聞記事をお送りします。ご一読いただければ幸いです。